

統合失調症の新規評価尺度 - Targeted Inventory on Problems in Schizophrenia(TIP-Sz)および Functional Assessment for Comprehensive Treatment of Schizophrenia(FACT-Sz)
Novel rating scales for schizophrenia - Targeted Inventory on Problems in Schizophrenia (TIP-Sz) and Functional Assessment for Comprehensive Treatment of Schizophrenia (FACT-Sz).

鈴木健文、内田裕之、野村健介、竹内啓善、中島振一郎、田邊 英、八木剛平、渡邊衡一郎、鹿島晴雄

慶應義塾大学医学部精神・神経科

Geriatric Mental Health Program, Centre for Addiction and Mental Health, Toronto, Ontario, Canada

Schizophr Res. 2008 Dec;106(2-3):328-36.

要約

統合失調症における様々な病態を評価するため、数多くの評価尺度が用いられてきているが、それぞれに長所短所があり、多忙な実際臨床下で選択すべき評価に関しては一致を見ていない。評価に基づく治療を促進するためには、的確、簡便で使いやすい評価尺度が必要である。我々は、Targeted Inventory on Problems in Schizophrenia(TIP-Sz)および Functional Assessment for Comprehensive Treatment of Schizophrenia(FACT-Sz)を開発した。TIP-Sz は異常言動/解体、敵対心/興奮/暴力、無関心/感情的引きこもり/運動減退、気分/不安/強迫/確認に関する症状、病識/現実検討能力、社会的能力/自立、治療へのアドヒアランス、治療関係/現状に対する治療者の安心感、全般的予後印象、自覚的ウェルビーイング/治療への満足度、の 10 項目からなる。頻繁に問題となるそれぞれの項目が 0-10 点で評価され、カットオフ値 6 点が臨床的にはまずまずのところでは許容されよう状態を現すように意図されている。FACT-Sz は完全に客観的視点から、概括的社会的機能を 0-100 点で評価し、GAF や Social and Occupational Functioning Assessment Scale(SOFAS)よりも、より明確かつ幅広く分類できるようになっている。カットオフ値 60 点が、臨床的にはまずまずのところでは許容されよう社会機能(外来治療、経過観察が選択されようが、もう一息という、頻繁に遭遇する状況)、すなわちひとまずの治療ゴール、をあらわすように意図している。本稿では TIP-Sz および FACT-Sz と頻用される Positive and Negative Syndrome Scale(PANSS)、Global Assessment of Functioning(GAF)および Clinical Global Impression-Severity 下位尺度との関連を調査した。36 症例を 4 名の経験豊富な精神科医が独立して評価した。良好な評価者間信頼性の下(Intraclass correlation coefficients:0.822-0.966)、それぞれの評価尺度の相関は高く(Spearman's ρ :0.825-0.909)、TIP-Sz と FACT-Sz の信頼性・妥当性が示唆された。特筆すべきは、TIP-Sz と FACT-Sz は、PANSS と GAF を完成させる 1/3-1/4 の時間で評定でき、症例をよく知っている主治医による評価は 5 分程度で可能であった。治療者は少なくとも症状に由来する諸問題、および社会機能を評価しているであろう。TIP-Sz および FACT-Sz は基準化された最低限の評価尺度として、日常臨床での評価に基づく治療において有用であると考えられる。